

朝礼 校長講話（10月9日）

今、テニス部・ハンドボール部・野球部の表彰を行いました。いつも言いますが、今年は練習時間に大きな制約を課していますし、しばらく前までは秋雨といって雨が多く降り十分な練習ができなかった中で、すばらしい成績をこうして収めてくれました。ありがとう。あわせて、生徒会執行部の認証も行き、確実に3年生の皆さんが築いた道を、1年生、2年生の後輩たちがしっかりと受け継いでくれていることを感じました。

今日は「危機管理」という話をしたいと思います。「危機管理」。それは、台風が近づいてくるとニュースで知ると、万が一に備えて、懐中電灯を用意したり、水を準備したりします。また、外にある飛びやすい物を家の中に片付けたりすることも「危機管理」と言います。

しかし、この「危機管理」はなにも自然災害だけに限ったことではありません。実は、学校で先週から大きな問題が起きていました。それは漏水です。水が漏れると書いて漏水といますが、これが約3秒間に1リットルのペースで漏れていることが分かりました。もちろん、学校中の水道やトイレなどの水を使うところはすべて調べました。でも、どこもそんなところはありませんでした。水道屋さんに聞くと、この3秒に1リットルというのは水道の蛇口を一杯開いて水を出している状態だそうです。それが1分間で60秒、20リットル。1時間で60分、1日24時間漏れっぱなしという状態が続くと、金額にすると何十万という額になる量です。気づくのが遅ければそれだけ水は流れ続け、大変なことになります。実は、この水漏れにいち早く気づいたのは校務先生、岸原先生でした。岸原先生は毎日、校門の横にある量水器をチェックしています。それをずっと続けることで、600人が生活している弥富中だとだいたい一日にどれぐらいの水を使うかが分かってくるので、それに比べるとかなり多いぞ、ということに気づいたわけです。これが「危機管理」です。おかげでこの連休中にその場所を探し出し修理ことができました。

この「危機管理」は皆さん自身にも当てはめることができます。「あれ、のどが痛いぞ」を思ったらマスクをしたりうがいをする、「今日はちょっと肌寒いかな」と思ったら夏服ではなく冬服を着る。これが自分でできる「危機管理」です。この「危機管理」をせずにはおっておくと、かぜをこじらせてしまうことになります。また、自分だけでなく、周りの友だちにも使えます。「なんか最近、元気がないけど大丈夫かな」「あれ、このツイッターの書き方いつも違う感じだなあ。もしかしてなりすまし…？」と、日頃接しているからこそ気づくことが

あると思います。その時に、それをそのままにしないで周りにいる人に伝えるという「危機管理」をしてくれると、大きなことになる前に防ぐことができると思います。そんなことを期待しています。